

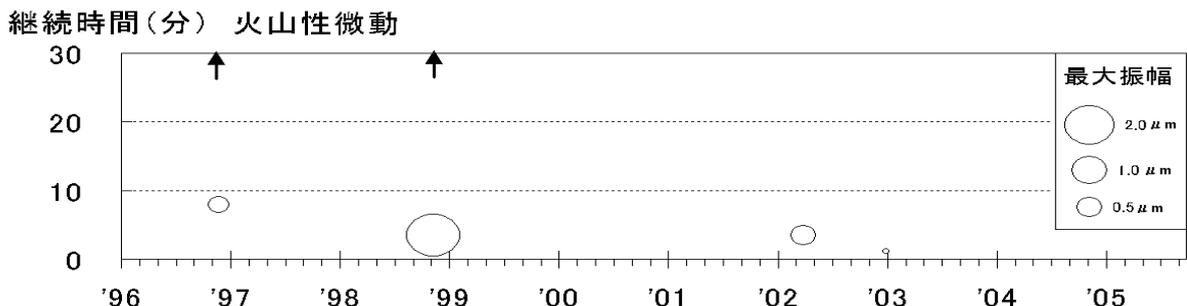
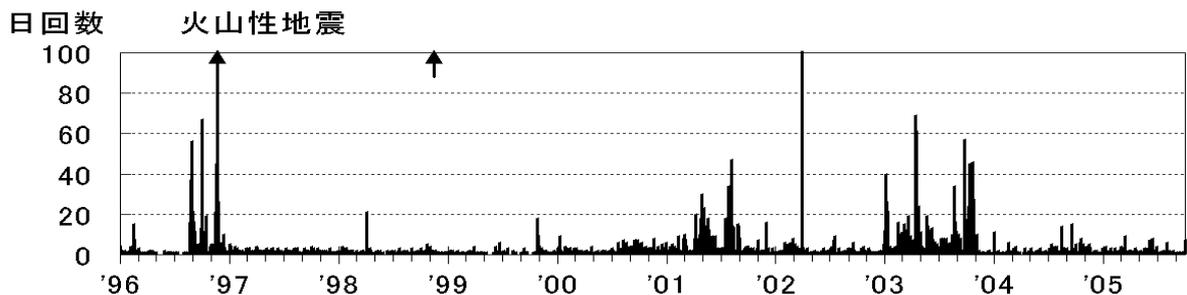
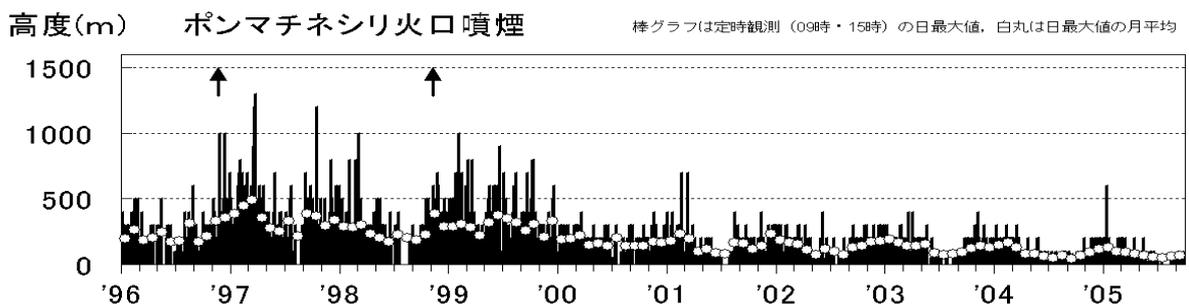
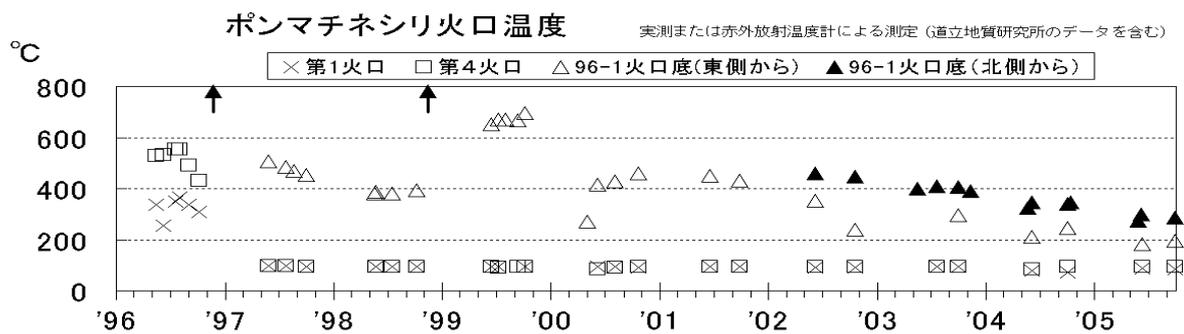
雌阿寒岳

1 概況

地震は少ない状態で経過しており、火山活動は比較的静穏な状態となっています。

2 噴煙の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間(9月)と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m以下で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。



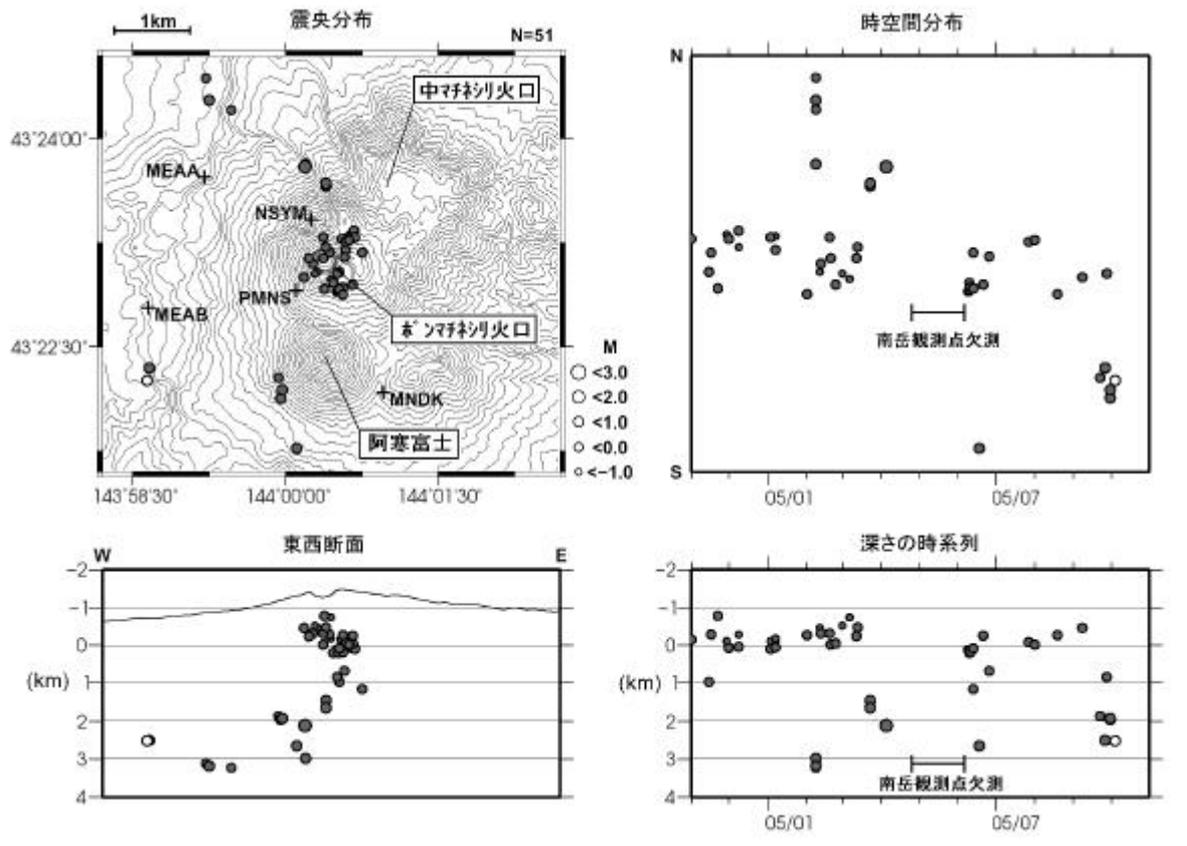
最近の火山活動経過図(1996年1月1日~2005年10月31日) 印は噴火

3 地震および微動の発生状況

ポンマチネシリ火口付近を震源とする地震は1日あたり0~4回と少なく、静穏に経過しました。火山性微動は2003年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数(B点)

2004~2005年	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
地震回数	28	9	26	19	32	20	20	40	14	16	18	22
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



雌阿寒岳の震源分布図(丸印:震源、+印:地震観測点)

印は今期間(2005年10月1日~31日)に求まった震源を示しています。

印は前期間までの約11ヶ月間(2004年11月1日~2005年9月30日)に求まった震源を示しています。

震源はポンマチネシリ火口直下の海面付近と北西山麓のやや深いところ(海面下約3km)に分布しています。今期間に求まった震源は南西麓のやや深いところに分布しています。

震源分布図の説明

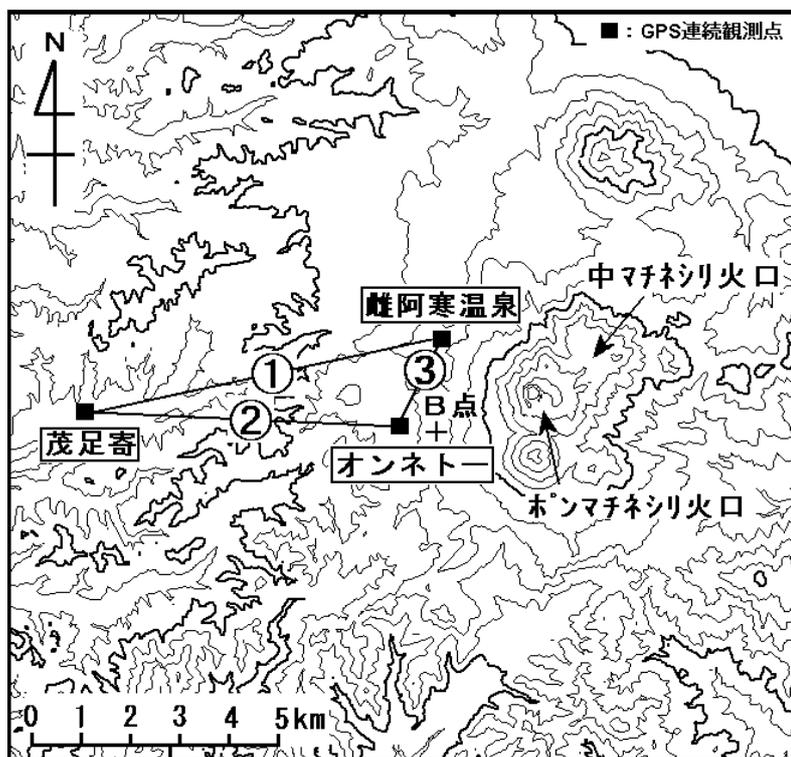
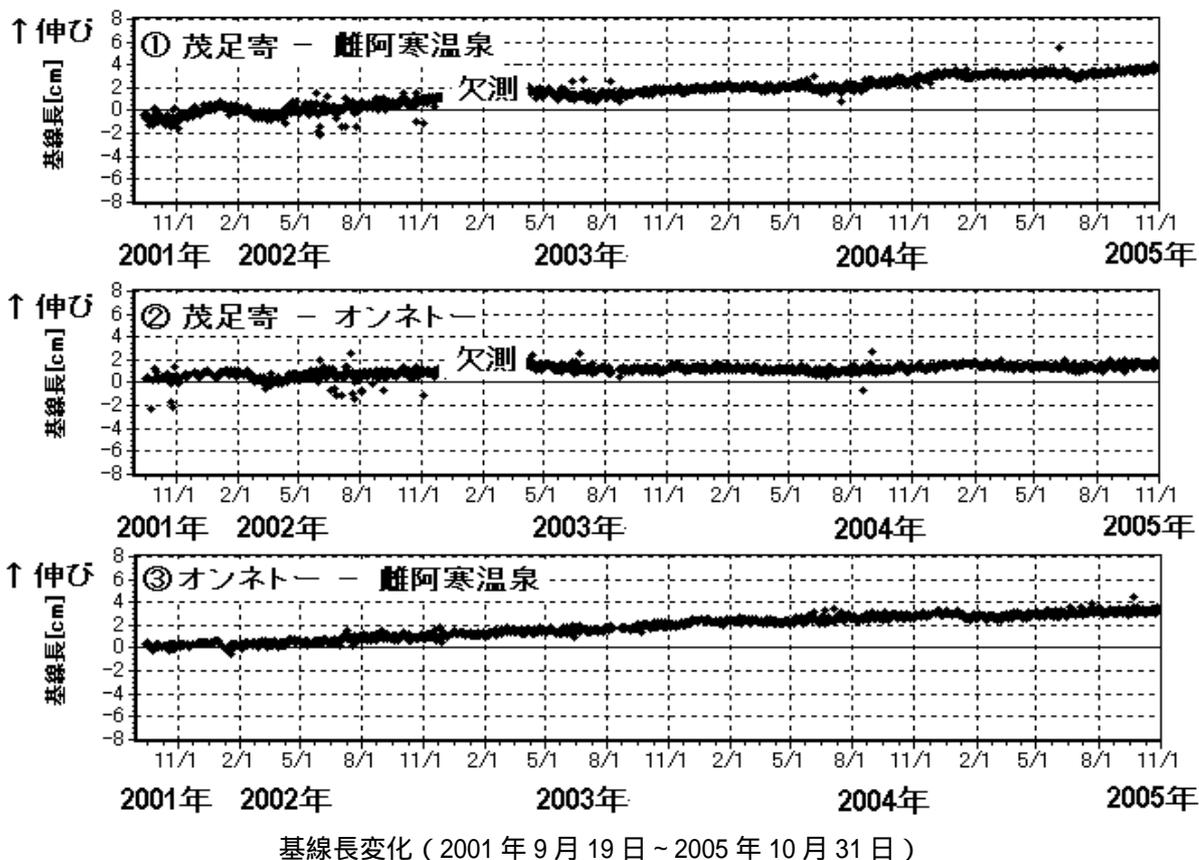
東西断面 震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。

時空間分布 震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。

深さの時系列 時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

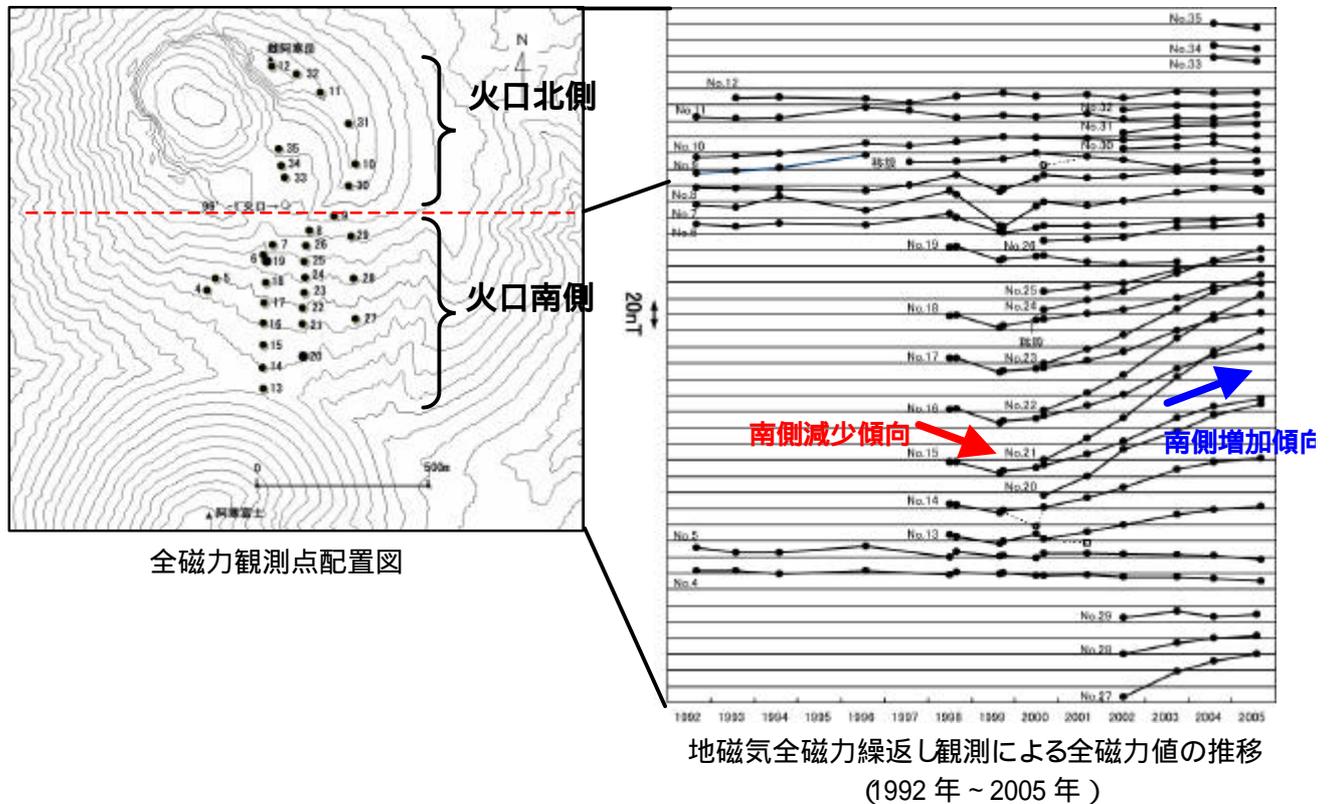
4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。

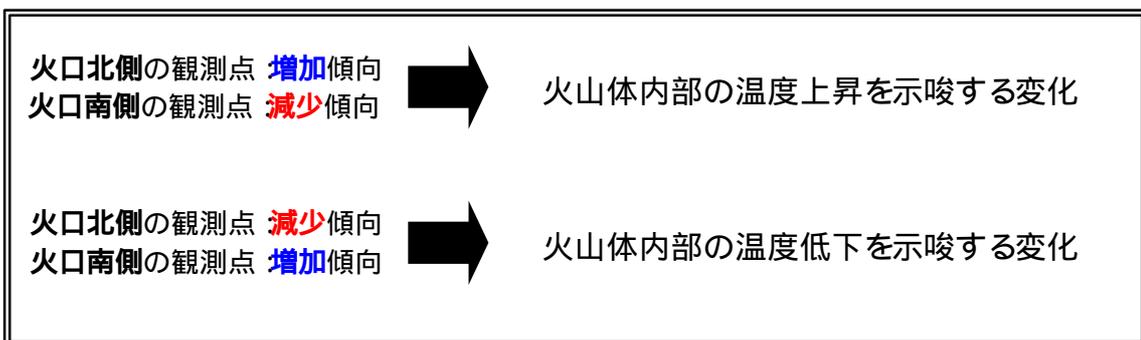


5 地磁気全磁力の観測結果

気象庁地磁気観測所が8月19日および9月13日に実施した地磁気全磁力観測によると、96-1火口付近の地下の冷却を示す変化が継続しています。



全磁力値の変化と、示唆される火山体内部の温度変化



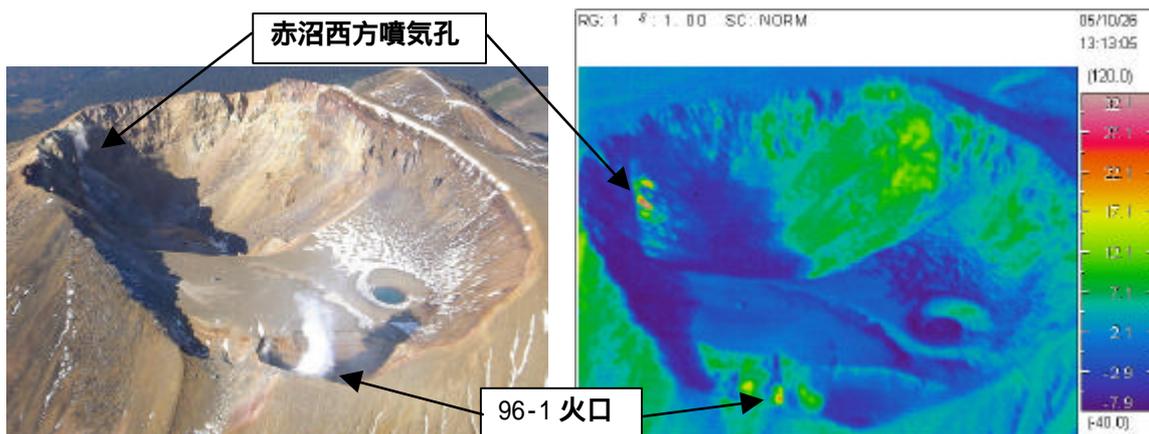
* 別添の防災メモを参照してください。

6 上空からの観測結果

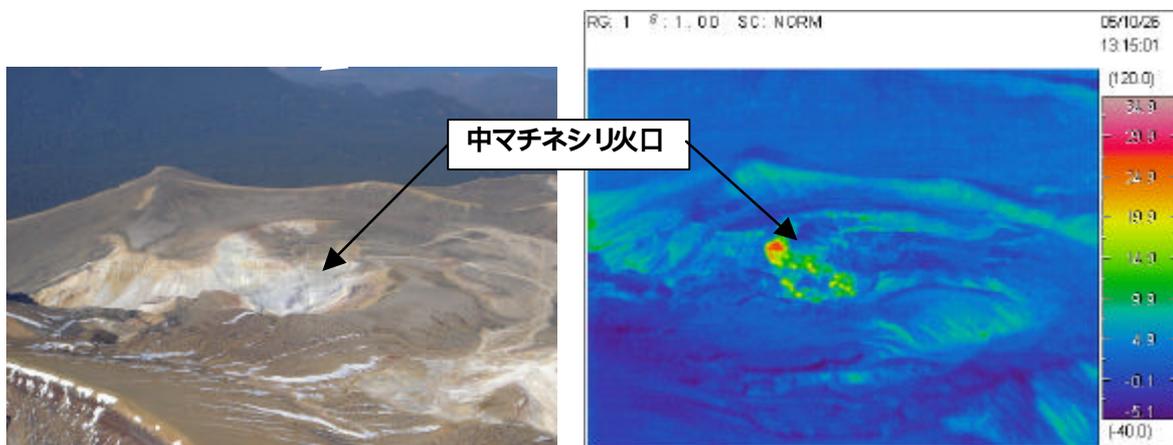
10月26日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ96-1火口、赤沼西方噴気孔および中マチネシリの噴煙の状況に、これまでと比べて大きな変化はありませんでした。

ポンマチネシリ96-1火口からは白色の噴煙が高さ80~100m程度まで立ち上り、東へ流れていました。

赤外熱映像装置*による観測では、各火口やその周辺の温度分布に変化は見られませんでした。



左：南東側上空から撮影したポンマチネシリ火口
 右：赤外熱映像装置によるポンマチネシリ火口の表面温度分布
 (火口内の北側斜面の高温部分は日射の影響によるものと考えられます。)



左：南南西側上空から撮影した中マチネシリ火口
 右：赤外熱映像装置による中マチネシリ火口の表面温度分布

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。